



2025年5月18日(日)

*コロンビアのブガ(Bugha)で3月2日に目撃・回収された球形 UFO は、撮影者が撮った飛び方を見る限り、地球外に起源をもつ可能性があると思います。

ET の偵察機か、地球へ届けるメッセージっぽいですね。

[“空飛ぶ球体型 UFO が墜落する動画”に驚愕の声…回収された UFO は調査中「表面にエイリアンからのメッセージ？」\(Pen Online\) - Yahoo!ニュース](#)

上記ページにリンクした動画で飛び方を確認できます。

このタイプの偵察機はときどき飛んでいる。飛行機とすれ違う動画も見たことがあります。

落下原因は近くにある鉄塔からの 1 万ボルトの放電としているけれど、証拠はあるのかな。

ただの推論っぽいですが。

そしてビデオで追っていた撮影者のすぐ近くに落下したのは偶然なのか？

このシーンは撮影者たちの仕組んだ狂言だとする否定的意見が出そうな場面です。

でもこの球形の物体はその後研究者が X 線で調べて、人智を越えた奇妙さを呈していることが判明しているので、とりあえず頭から否定するのはやめた方がいいと思う。

人類へのメッセージがあるので意図的に撮影者の近くに落ちたのかもしれないし。

科学的態度は判然としない事象に対しては最初から決めつけず、ブラックボックスにして調べを続けることだと思います。

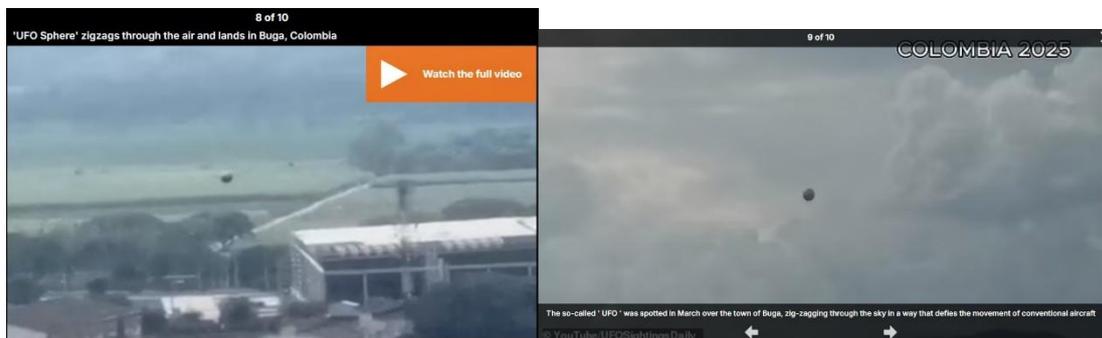
拾った人が政府に渡せば二度と戻ってこないからと、例のメキシコの手メイ・マウサン氏に渡したのはどうなのか。

南米ならペルーのイカ大学に渡した方がよかったです。

英国のデイリーメールがこの事件を報道しているというので、検索してオンライン版を見つけました。

3月5日や5月7日の記事もありますが、以下の5月8日の記事が写真も多くて全体像がつかめるとと思います(宣伝画面がうるさいですが)。

[Scientists studying spherical UFO say they've discovered alien technology | Daily Mail Online](#)



動画は TikTok にもあります。

<https://www.tiktok.com/@orionai.it/video/7502151153119956226>

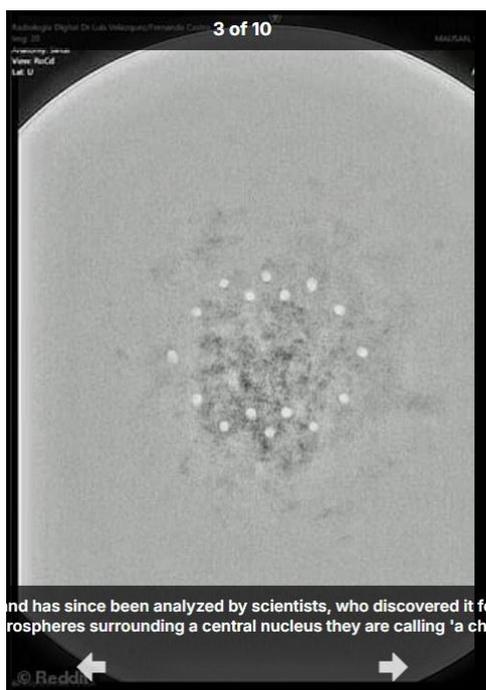
ただし、英文を全部読みましたが、この種の文章でよく感じるもどかしさを感じてしま
う。

人智を越えた物体を扱っているのだからすぐ分析結果はでないだろうけれど、もうちょ
っと切り口の鋭い分析はできないものか。

物体の表面を覆う金属の組成などは、すぐ結果を出せる分析器があるはず。

チタンか鉄というようなあいまいな結果はなんだろう。

内部で層を成す構造や、18個(16個に見えるけど)のチップ(5mmの深さではまり
込んでいる)とか不思議なことが多い。



でも球体の表面に描かれた図形は明確なものなので非常に印象的です。

これを ET たちが刻んだと想像すると不思議な気持ちになります。

これがメッセージなのだろうか。

調べている人たちは人類が自然破壊することへの警告が描かれていると考えているようですが、それってこの図形から分かるかな？

このあと、球体の中を割って調べるのだろうか。

猿がコンピュータを調べるようなレベルの違いがあるでしょう。

割って何か分かるのだろうか。

そもそも割れるのか。

捕獲したET宇宙船の外壁が非常に硬くてドリル類の刃がはじかれたという話もあります。

USAPs 側の天才科学者や技術者が墜落 UFO を分析するときの「苦労」がしのばれます。

人工 UFO はいちおう反重力で飛ぶようにはできたけれど、ボルトでつぎはぎした機体だし、亜空間に行くことはできていない。

参考：

ポッドキャスト Caspersite の動画

[エイリアン・ブガ球体内部で発見されたものは衝撃的だ](#) 球体の重さが変化する。反重力装置のせいかな？

9月24日(水)

* [Bug Sphere](#) についてグリアの見解が21日に出たとラッセル氏。

そのレポートを読んでみてから報告します。

9月25日(木)

* Buga 球体についてディック・ラッセルがスティーブン・グリアと会話した内容を翻訳・紹介しておきます:

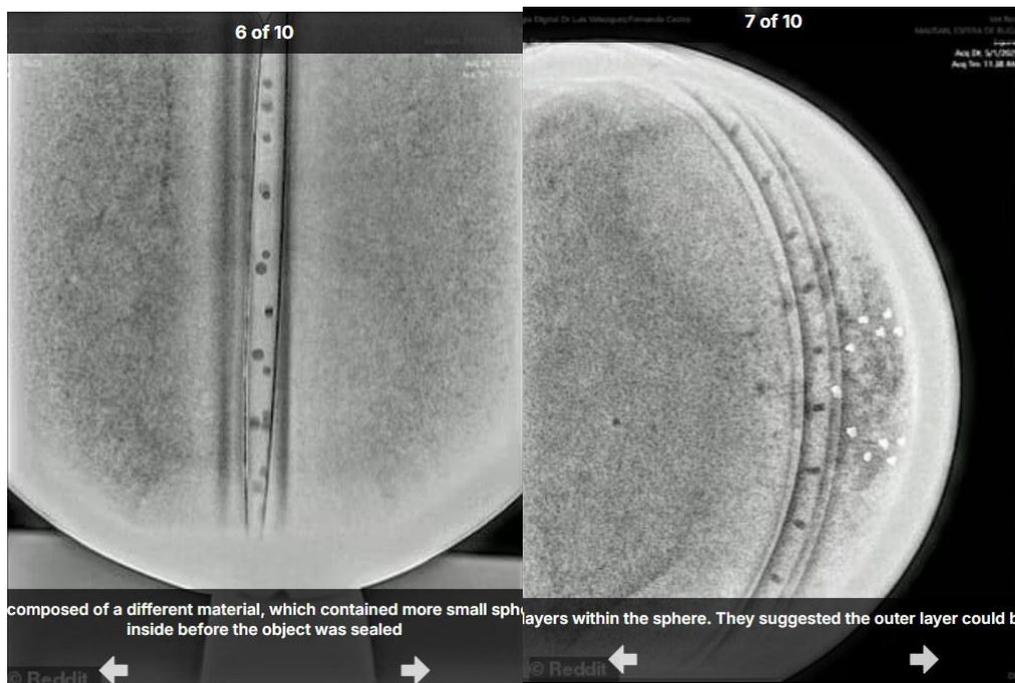
コロンビアの Buga 市の上空を飛んでいるうちに高圧線に触れて原っぱに墜落したこのバスケットボール大の不思議な球体は落下した Buga 市にちなんで Buga 球体と名づけられた。

今はメキシコのジャーナリスト兼 UFO 研究者のモウサンの手に渡り、今年 7 月に公開された。

グリア博士はジョージア大学のアイソトープ応用研究センターの科学者たちと共に実験に加わった。

球体はアルミ合金で出来ており、その内部はグラスファイバーに似たものが詰められている。

その球体に空いている31の 4 mmの穴にから樹脂が取り出された。



金属の球体の年代は測れないが、樹脂内の炭素同位体から樹脂の年代を測定することはできた。

その結果は1万2560年前(誤差+マイナス30年)だった。

この年代は氷河期である。

氷河期が起こった原因には彗星や小惑星の衝突説もある。

この時期はプラトンが唱える古代アトランティスが海の底に沈んだ頃にあたる。

この年代はエジプトのピラミッドやシュメール文明やギョベクリ・テペ文明より古い。

ラッセル氏はグリアと議論したが、グリアによれば、Buga 球体の年代が樹脂の年代であるとは必ずしも言えないという。

球体を使用していた存在はその樹脂を定期的に交換したかもしれない。

その場合は球体はもっと古いことになる。

球体と樹脂が同時に作られたのなら、1万2560年前ということになると。

実験は今も進行中である。

グリアによれば、金属と樹脂に練り込んである髪の毛状の繊維も分析中だという。

樹脂は光ファイバーシステムの一部を成しているように見える。

別の実験では樹脂の化学的成分を正確に分析しているところだ。

最近、この物体に関しある出来事が起こった。

この物体から秒単位の電子パルスが発せられたのだ。

それはパターンを反復しており、未知の源からのコミュニケーションの意図が示唆される。

グリアによれば、それは電磁エネルギーがその球体から出ているのだが、それは球体が落下した衝撃で、球体の推進システムから発散しているのかも知れないという。

そのシステムは反重力であり、燃料源や放射能は認められず、まったく未知のエネルギー・推進システムをもっている。

球体に刻み込まれた図形は古代オルメカ文明の文字に似ていると AI が解析した。

グリアは性急に結論付けるべきではないと忠告している。

しかし彼によれば、これらの図形は Buga 球体を作った者たちが刻み込んだと言う印象をみんな感じている。

球体は非常に高度のテクノロジーで出来ている。

球体表面の図形はこの球体を作った者が刻んだものだろうか。

それとも作成後に別の者たちが、自分たちの文化にとって意味のある図形を刻んだのだろうか、とグリアはいう。

多くの疑問にまだ答えが出ていない。

進行中のガンマ線によるテストで球体が地球由来なのか、地球外由来なのかが判明するだろう。

Buga 球体の謎は尽きない。

球体は落下した場所の草や土壌から水分を吸い取っていたが、それはどんなエネルギーによるものか分からない。

なぜ球体はヴェーダのマントラを人が唱え始めた瞬間にパルスで応答したのか？

なぜ球体の体積は一度も変化していないのに重量が何度も増加しているのか。

以上翻訳

追記:

1. まずこの球体の真実性について。

空を飛んでいたこの球体が突然落下し始め、動画を撮っていた人近くの草原に落ちたことで、あまりに都合よすぎる展開に、フェイクかもしれないという疑いを持つ人もいます。

私はこの動画は絶好の瞬間をたまたま撮影できたスクープ映像なので、そのような疑いをかけられてしまうのだと思います。

その後球体を科学的に調査した結果、地球上の物体としてはありえない重量変化や電磁波放出、内部構造の不可思議さが判明しているのです。地球外文明の産物である可能性が考えられます。

動画が本物として、バスケットボール大の球体が何の推進装置もなさそうなのに空を飛んでいたわけで、これも未知のテクノロジーの存在を強く示唆しています。

2. [炭素14年代測定](#)で出た1万2560(プラスマイナス30)年前という年代について

この測定法は地球上の炭素同位体である炭素12と放射性の炭素14との比で測っています。

植物や動物が死ぬと、外気からの炭素摂取が途絶え、体内で放射性炭素14だけが α 崩壊して減っていき、炭素12と14の比が変化します。

植物や動物が死んでからの年限によって、その比がどのように変わるかが、5000年分くらい調べられている。

その尺度を使って、検体が何年、何十年、何百年、何千年前に死んで素材として使われているかが分かる仕組みです。

でも、球体の穴に入っていた樹脂が地球由来でない場合、地球環境で作ったその尺度は使えません。

1万2560年前というのは、あくまで球体から抽出された樹脂が地球の植物などを原料にしている場合の数値です。

炭素14の半減期(約5730年)は宇宙のどこでも変わりませんが、大気中の炭素14は惑星上空で宇宙線によって発生しています。

その割合は系外惑星では地球とは違うはずです。

その惑星特有の炭素12と14の比があるわけで、地球の尺度は使えない。

というわけで、1万2560年前が氷河期であり、アトランティス大陸が水没したころだという指摘からいろいろファンタジーが湧いてくるかもしれませんが、それは抑制した方がいいです。

異星文明が球体を訪問先の地球の資源を利用して作った場合にだけ通用する年代測定です。

その場合には、球体は1万年2千年以上前から地球上を飛んで地球文明の進展を観察していたことになる。

それがたまたま2025年3月に墜落して地球人に捕獲され、分析されているということになります。

なお、ラッセル氏は今日も新たな情報を送ってきています。

米軍が超能力者たちを利用して敵の様子を透視する試みをしていたことは有名ですが、それに関与していた人物にラッセル氏が Buga 球体の情報を伝えて、見解を聞くという展開。

これも翻訳・紹介するつもりです。

9月26日(金)

*ラッセルの2つめのレポートを読みました。

前回のレポートはスティーブン・グリアとの議論が載っていました。

今回はスターゲート計画にも関与した量子物理学の専門家とのやりとりです。

ラッセルはその彼に Buga 球体の特性について集めた詳細な情報を伝えている。

この部分は大変興味深いです。翻訳する価値あり。

物理学者からの返答では、透視能力の持ち主たちが異星船を透視して得た印象などが述べられています。

透視が効かない部分もある。

この2度目のレポートは明日にでも訳出します。

9月27日(土)

* ディック・ラッセルのレポート(2)

透視能力者たちは Buga 球体を透視して何が見えたか、または見えなかったか。

(グッチ注:実際に透視したのは話題の Buga 球体ではなく、一般的な異星宇宙船だった)

私はかつてスターゲート計画に参加し今は引退している諜報世界の人物と接触がある。

彼は量子物理学の専門家であり、特に CIA や米国防情報局 DIA の透視活動に対して貴重なアドバイスをする立場にあった。

その透視活動では多くの男女が彼らのメンタル能力を使って敵のターゲットを「スパイ」するために訓練を受けていた。

この人物が私のオンライン・プラットフォームを訪れ、とくに UAP 関連事項にコメントしていた。

彼は私の最近の投稿について、以下のように書き込んだ：

「私はこの球体にあのような現代の集積回路じみた記号が刻まれていることで、疑わしく思っているが、球体がある種のアルミニウムで出来ている事実の方に興味を惹かれている。

その事実は何人かの透視能力者たちが述べている金属素材に関する見解と合致している。

このことに関する詳細はのちほど述べる。」

そこで私は球体に関するこれまで知られている事実をオンライン上で見つけ、それを彼に送って、のちほど述べるという「詳細」を明かしてくれないかと頼んだ。

彼の返答を紹介する前に、私が彼に送った球体に関する事実を述べておく：

反重力飛行：球体は空気力学的動きはせず、空中に浮揚したり移動することが観察され、その動きには知性を感じられた。

重量変化:球体の重量は時間が経過するうちに 2 kgから 6 kg、そして 10kgと増加していった。(グッチ注:これは重力に反する現象であり、反重力装置の関与が考えられる)

球体の温度の奇妙さ:400 度の炎に晒しても表面は常に冷たい(氷のよう)。

しかし球体に水をかけると、水蒸気になる。

外気が 24 度 C のとき、室内が 33 度 C まで変化したことが確認された。

球体の成分:アルミニウムとシリコン、鉄、チタン、銅、マグネシウムの合金。

これは A413 というよく知られた組み合わせのアルミニウム合金とは異なる。

球体の赤道にあたる部分の高分子マトリックスにグラスファイバーが入っている。

極端な硬度:初期硬度 330HB(典型的なアルミニウム合金 7075 の 150-160HB よりはるかに硬い)。

電磁波に晒すと硬度が 33-120HB に低下したが、これは内部構造か物質の状態が変化したことを示唆している。

溶接や縫合の痕跡なし:球体は組み立てた跡がなく、シームレスに作られている。

信号を発している:さまざまな周波数の信号(70-125 メガヘルツ)を発している。これはラジオ波によくある周波数とは異なっている。

機器干渉:3D スキャンや硬度テストをすると障害が起こる(内部パターンがスキャンできない)。

球体の内部構造:X線やCT スキャンによって、内部は密度が異なる三層の固体構造であり、花瓶型の内部構造をし、コア周辺には16の小球体があることが分かる。

環境の影響:球体の保管場所周辺の草が枯れ、人が触ると吐き気を催す。

触れた人の指紋認証のような反応が一時的に起こる。

球体表面のパターン:神秘的なシンボルが描かれており、スキャンでは捉えられない18のチップ状の接点(ノード)がある。

以上ラッセル氏が量子物理学者に送った球体情報。

物理学者からの返信の和訳は明日にします。

9月28日(日)

* ディック・ラッセルレポート2 (つづき)

彼からの返信は翌日来た。

この素早さは諜報機関が UAPs/UFOs の実相を探知・調査するために今も変わらず透視活動を続けていることを物語っている。

以下、彼からの返信を引用する：

「物理学的に言って、アルミニウムは慣性で移動する乗り物に適している(グッチ注：燃料燃焼で推進する乗り物ではない異星船を意味している)。

アルミニウムは電磁力の影響を受けないニュートラルな素材だが、高い導電性をもっている。

分子特性にスイッチ(オン・オフ)機能がある物質とアルミニウムを合金すると、電磁界の磁力線に沿って推進する乗り物を作ることが出来る。

その乗り物は目に見える推進装置や外部からの操縦は不要である。

ふつう磁性のない鉄や鋼の合金に一時的に磁性を帯びさせて鉄や鋼に対する引力や斥力を付けるにはエネルギーチャージが必要であるが、アルミニウム合金の乗り物にはエネルギーチャージは不要である。

透視能力者たちはそのような乗り物の物理的特性を描写しようとするると困難に直面する。

なぜなら素材は地球にもある物質なのに、性質が劇的に変化するからである。

矛盾と非具象性：

透視者たちはしばしば UFO の材質の印象を「軽いが強い」とか「密度が次第に変化する」と報告するが、素材の化学式や合金の成分など、具体的で検証可能な描写をすることはまれである。

・象徴的や比喩的な語句を使って描写する：

UFOの材質を「生きている」とか「応答する」とか「知的」と描写する透視者たちもいる。

つまり一種のテクノロジー的ハイブリッドであることを示唆している。

しかし繰り返すが、これらの描写は実証というより解釈である。

・メソッドの限界：

透視はたとえ厳密に構築された方法論（スタンフォード研究機関で開発されたプロトコルのようなもの）に基づいていても、本質的に主観的である。

透視は本来、正確な物理的特性を描写するより、ターゲットの周辺の様子、感情、一般的印象の描写に向いている。

[ベテラン透視者][リン・ブキャナン](#)と[ジョー・マクモニーグル](#)はこれら宇宙船を外から操作している力の存在があることで意見の一致をみているが、その力は信号のやりとりをベースにした量子もつれというよりはある種のマインドによる操作のような形ではないかと推測している。」

グッチ解説:

グリアの情報では異星宇宙船は操縦桿がなく、意識で操縦している。

つまり高次意識がテクノロジーに力を及ぼし操作する CAT(Consciousness assisted Technology)を使っている。

このスターゲート計画に参画していたという量子物理学者は意識科学までは考え及んでいないように思われる。

USAPs 側は誘拐してきた人たちに過酷な ESP 開発訓練をほどこして、異星宇宙船の操縦をハイジャックし、電磁スカラーパルス砲の照準域に誘導して撃墜している。

これはCATの悪用だ。

スターゲート計画もこのUSAPsのP3作戦と関わりがあったかもしれない。

少なくともESP能力の開発法に関し何らかのルートでノウハウを伝えた可能性はある。

グリアはそのP3訓練施設から逃げ出してきた人たちを迎え入れて共同研究もしている。

グリアは彼らが異星宇宙船をハイジャックするときに使う ESP 能力を善いことに使えないかと実験もしている。[\(グリアのポッド・キャストのエピソード3\)](#)

以下はグリアが語るエピソード3から（23' 46' ' ~26' 02' ' 2025 年 1 月 20 日にライブ配信）。

2024年の7月だったと思う。数か月前のことだ。我々は P3 オペレーター—の方式をモデル化しようとした。

もちろん P3本来の攻撃的な方式ではない。我々のチームは最善の方式を模索中だった。

我々は異星宇宙船を召喚するのではない。異星宇宙船を従者のように呼ぶのではない。

ダービー伯爵ではあるまいし(笑い)。

我々は彼らを召喚はしない。招待するのだ。しかし注意喚起も必要だ。

安全で適切な時間と場所を選ばないといけない。

彼らに地球は武装野営地であり、進化した武器で彼らを狙っていると警告すべきだ。

ひとつエピソードを話そう。大きな過ちをしでかしたケースだ。

我々のチームがモデル化したP3方式を使って異星宇宙船を招待すると、卵型の宇宙船が現れた。

すると突然別の宇宙船が現れ、激しい戦い(dog fight。メンバーの一人がそう描写した)が開始された。

2機ともが異星宇宙船というわけではなかった。

異星宇宙船1機と人工宇宙船1機だった。

ロッキード・スカンクワークで製造された人工UFOは異星宇宙船を捕らえ、撃墜するために現れたのだ。

これは本当にあったことだ。

私のチームにいた仲間たち、レイブンなどは25～30年もの付き合いだ。

我々が異星宇宙船を招待し呼んでいるとき、通常の飛行機が通りかかることもあるが、不気味な人工UFOが出現することもたびたびあった。

我々が異星宇宙船に変更を告げると、UFOは非物質化して消えるのだった。

こんな経験は数えきれないほどあった。

引用おわり

レイブンという女性とはプレゼン録画の取得に関し、メールのやりとりをしたこともある。

(もっとも私は CSETI からの情報は受けるばかりで、こちらからグリアたちにコンタクトしたことはないです)。

彼女はグリアのコンタクト・イベントに現れた ET の影を自動撮影で捉えた人だ。

その自動撮影を可能にする機器を私も購入して日本での CE-5 に使おうとしていたとき、コロナになり、CPAP が重いこともあって、コンタクト参加を諦めた経緯がある。

なおグリアが述べた失敗エピソードで、人工 UFO が出現したのは例の人工衛星などに USAPs が装備しているニュートリノ検出装置で、異星宇宙船が亜空間から三次元空間に出たとき発するニュートリノを検出したからだと思われる。

私は当初このエピソードを聞いたとき、異星船をハイジャックする P3 の方式を応用したせいで USAP 側が察知して人工 UFO が出現したのかと思っていた。

なお、2025 年 10 月 5 日に Gaia のポッドキャストにグリアが登場して Buga 球体についても少し話していました。

興味深かったのは、反重力場に入った物質の重力が減じていってゼロになると三次元空間から消えて、別次元の亜空間に移るという話でした。

UFO が三次元空間から消えて亜空間に移るプロセスを知った思いです。

また、超能力者たちが透視した異星宇宙船が活着しているように感じられたということでしたが、これもグリアが理由を教えてください。

異星宇宙船は ET が意識の力(高次の念動力)で操縦しているわけですが、異星宇宙船システムと ET の意識はいわば一体化している。

そのために宇宙船自体が「活着している」ように感じられるのだと。

また、ET 宇宙船は生物的特徴ももっていて、ロズウェルの墜落のとき、機体の破損が少ない宇宙船の表面(肌)をカットしても時間経過とともに元に戻った(治癒した)という。

グリアが証言集めを始めたころ、まだ存命だった人物からそのことを聞いたという。

[Dr. Steven Greer on 3I:Atlas, UFO Hearings & the Bugasphere](#)

なお、グリアは話題になっている3I:Atlas はただの小惑星だろうという。

[史上 3 つめの太陽系外から来た天体、新観測が続々、驚きの正体 | ナショナル ジオグラフィック日本版サイト](#)

[3I ATLAS 彗星 | 3I ATLAS 恒星間天体 | 3I ATLAS 最新情報 | 3I ATLAS | Star Walk](#)

また最近あった UFOHearings は ET/UFO 問題をミスリードしようという連中のしわざだという。

[「白い光が三角形に」“UFO”新映像公開 元アメリカ軍人らが議会で目撃証言…聖地ロズウェルには“隠ぺい疑惑”の歴史も](#)

私もこの動画を見たとき、そう思いました。そもそもドローンにロックオンされるような ET 宇宙船などありえません。